

I. アジア

大韓民国

主要データ

国名〔英名〕	大韓民国〔Republic of Korea〕
面積(km ²)	99,720
海岸線延長(km)	2,413
人口(百万人)	48.5
人口密度(人/km ²)	486.5
GDP(百万US\$)	929,124
一人当りGDP(US\$)	19,136
一人当り銅使用量(kg/人)	17.6
主要鉱産物：鉱石(千t)	銅：249.2、鉛：25.0、亜鉛：75.5、ボーキサイト：323.4、クロム：200.0、マンガン：115.0、モリブデン：1.8
主要鉱産物：地金(千t)	銅：214.5、鉛：72.0、亜鉛：110.4、アルミニウム：240.0
鉱業管轄官庁	知識經濟部
鉱業関連政府機関	Mine Registration Office、韓国地質研究所(KIGAM)
鉱業法	Mining Act of Korea、Submarine Mining Act
ロイヤルティ	NA
外資法	外国人投資促進法
環境規制法（環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等）	NA
鉱業公社	大韓鉱業振興公社(Korea Resources Corporation)、Korea Mineral Information Service(KOMIS)
鉱業活動中の民間企業	Korea Zinc、LS-Nikko Copper Inc.、POSCO Ltd.等
近年の鉱業関連問題（資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等）	NA
2008年のトピックス	2007年と同様政府の積極的な資源開発政策と鉱物価格の高騰を背景に政府及び韓国企業による海外鉱物資源の進出が進められた。

1. 鉱業一般概況

韓国の産業構造の中では、韓国は鉱物資源に恵まれないこともあり、鉱業のシェアは低く、GDP産業部門別構成比の中でも、2007年の推定値で0.4%である。

大韓鉱業振興公社(Korea Resources Corporation：KORES)によれば、アンチモン、石炭、銅、金、鉄鉱石、鉛、モリブデン、銀、

錫、タングステン、亜鉛をほとんど埋蔵しておらず、カオリン、石灰石、葉ろう石、石英岩、滑石のような工業用資源が比較的埋蔵されている。

一方、韓国はカドミウムと亜鉛地金においては世界有数の生産国である。また、アジア・太平洋地域においては、セメント、銅地金、ろう石、滑石についても有数の生産国である。

韓国は、アジア・太平洋地域においては、石炭、天然ガス、酸化ニッケル、各種鉱石(銅、鉄、鉛、亜鉛)、原油の主要な消費国、輸入国のひとつである。資源が限られているため、韓国はビスマス、石炭、各種鉱石(銅、鉄、レアアース、亜鉛)、蛍石、天然ガス、石膏、マグネサイト、原油の需要を満たすためにはほぼ 100%輸入に頼らなければならない。

2. 鉱業政策の主な動き

韓国では、鉱物資源に恵まれていないため、鉱物資源の多くを輸入に頼らざるを得ず、また資源危機に対応するための資源備蓄も不十分である。そのため、韓国政府は積極的に海外探鉱や鉱物資源開発を推し進め、資源国との協力体制を模索している。

2008年4月1日の報道によれば、韓国の李明

博(イミョンバク)大統領が原油や鉱物資源など海外での調達拡大に向けて、在外公館に派遣する人員を増やすよう指示していることが明らかになった。アフリカや中央アジア、中南米を中心に、16か所前後の在外公館に専門知識を持つ要員を送り込む。中国との資源獲得競争を念頭に置いているとみられる。

また、2009年の1月2日の知識経済部による「2009年度業務計画」における資源・エネルギー確保について、大韓石油公社の大型化、鉱区の権益取得などにより、石油・ガスや主要6鉱種(石炭、ウラン、鉄、銅、亜鉛、ニッケル)の自主開発比率を高めるとしている。

なお、韓国政府は2005年のAPECで、石炭、ウラン、銅、亜鉛、鉄、レアアースを6大戦略鉱物資源とし、海外での韓国による自主開発による輸入率を2013年までに以下のとおりにすると発表している。

	石炭	ウラン	銅	亜鉛	鉄	レアアース
2004年	24.3%	-	6.9%	36.7%	5.7%	4.0%
2013年	35.0%	10.0%	20.0%	40.0%	20.0%	10.0%

(出典：APEC・KORES Presentation 資料)

このように、日本と同様に資源を海外に頼らざるを得ない韓国は、資源確保のために、積極的に海外進出政策を図っている。

一方、国際的な非鉄相場下落を利用し、景気回復で需要が上向いたときに備えるものとして、国家が供給不足時に中小企業向けに放出する非

鉄保有量について、2009年は37%増加させるとの計画が発表された(公営調達庁)。2009年の銅、アルミ、ニッケル、亜鉛の国家保有量を150.4千tから205.5千tにまで引き上げる計画である。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要非鉄金属生産量

(単位：t)

鉱種	2007年	2008年	前年比増減率(%)
金鉱石	0.2	0.2	0
銀鉱石	21.6	21.6	0

(出典：World Metal Statistics 2009)

(2) 地金生産量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	前年比増減率(%)
銅地金	584.5	573.0	-2.0
鉛地金	254.0	258.4	1.7
ニッケル地金	71.1	73.2	3.0
亜鉛地金	691.0	700.0	1.3

(出典：World Metal Statistics 2009)

(3) 地金消費量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	前年比増減率(%)
アルミニウム	1,153.2	1,080.6	-6.3
銅地金	857.6	851.6	-0.7
鉛地金	343.6	300.1	-12.7
錫地金	16.1	16.3	1.2
亜鉛地金	486.2	448.2	-7.8

(出典：World Metal Statistics 2009)

(4) 輸入量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	前年比増減率(%)	主な輸入相手国
銅鉱石	421.2	445.5	5.8	チリ、豪州、インドネシア
銅地金	419.8	406.5	-3.2	チリ、フィリピン、ザンビア
鉛鉱石	154.0	141.0	-8.4	豪州、ペルー、ボリビア
鉛地金	110.0	92.0	-16.4	豪州、カザフスタン、中国
亜鉛鉱石	667.0	744.0	11.5	ペルー、豪州、チリ
ニッケル鉱石(グロス)	-	437.3	-	ニューカレドニア、中国、サウジアラビア
フェロニッケル(グロス)	91.2	80.3	-11.6	日本、インドネシア、コロンビア
酸化ニッケル(グロス)	37.4	39.6	5.9	インドネシア、カナダ、豪州
未加工ニッケル(グロス)	18.3	17.0	-7.1	豪州、ロシア、カナダ
ニッケル粉、ニッケルフレーク(グロス)	1.2	1.5	25.0	カナダ
錫地金	16.8	16.4	-2.4	マレーシア、インドネシア、タイ

(出典：国際非鉄研究会5月号統計、World Metal Statistics 2009)

(5) 輸出量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	前年比増減率 (%)	主な輸出相手国
銅鉱石	0.1	0.3	200.0	中国、ベトナム
銅地金	139.4	127.5	-8.5	チリ、タイ、インドネシア
鉛地金	23.0	50.0	117.4	シンガポール、台湾、タイ
未加工ニッケル(グロス量)	6.3	2.3	-63.5	台湾
錫地金	0.3	0.1	-66.7	中国、ベトナム

(出典：国際非鉄研究会 5月号統計、World Metal Statistics 2009)

(6) 日本への輸出量

鉱種	2006年	2007年	2008年
金地金(kg)	198	188	792
銀地金(t)	668	655	717
銅地金(千 t)	40	11	1.6
亜鉛地金(t)	0	1,156	-
アルミニウム地金(千 t)	24	1	0
クロム鉱石(千 t)	0	0	-
フェロクロム(千 t)	51	0	-
コバルト地金(t)	0	52	75
酸化コバルト(t)	20	14	6
モリブデン鉱石(t)	15	73	634
フェロバナジウム(t)	537	793	1,242
マグネシウム地金(t)	334	462	40
希土類原料・製品(t)	59	202	558
スズ地金(千 t)	198	0	0
鉄鉱石(千 t)	668	95	87
白金族金属(kg)	40	153	39
粗銅及びアノード	-	-	0

※それぞれグロス量、「0」は少量を意味する。

(出典：日本貿易月表)

4. 鉱山・製錬所状況

(1) 大韓 鉱業 振興 公社 (Korea Resource Corporation: KORES、本社：ソウル)

フィリピンの Rapu Rapu 銅鉱山における合計権益が 70% (LG International: 42%、KORES: 28%) となり、過半数権益を得ることとなった。今後、約 43 百万 US\$ を投資して、開発や操業能力の改善を図る。

KORES は、2008 年 6 月から 2009 年 6 月までの

間に、モンゴルとロシアに事務所を開設している。また、2009 年 4 月 28 日には、ラパス事務所を開設、29 日にはボリビア鉱山会社 (COMIBOL) との合弁企業 Corocobre 社 (COMIBOL 55%、KORES 45%) を Pacajes 郡に開設。その後、2008 年 6 月 18 日、COMIBOL と Corocoro 銅鉱山を共同で開発するための協定書に調印。KORES が 10 百万 US\$ を投じて 1.5 年間で周辺探査を行うとともに、初期投資額 200 百万 US\$ を投じて、

15～20 年の間の鉱山開発を行っていくというもの。年産、銅カソード 30,000～50,000t が見込まれている。

2008 年 8 月、資源供給を拡大するために、今後 3 年間でマイニング・プロジェクトに 5 兆ウォン(48 億 US\$)を投資する計画を発表。

2008 年 10 月、KORES、Dawoo International Corp.、LG International Corp.、STX Corp. のそれぞれの豪州の現地法人を介した韓国コンソーシアムが、Scimitar Resources 社のサスカチュワン州 Maree ウラン・プロジェクトで JV 合意を発表した。契約内容は、最大で 6.2 百万 A\$ を出し、権益 50%を得るものである。

(2) POSCO Ltd. (本社：ソウル)

2008 年 1 月に General Moly Inc. が有する Mount Hope molybdenum プロジェクト(ネバダ州)に対して、170 百万 US\$を投資することに合意した。

2008 年 4 月、原料の安定確保を目的に南ア Karahari マンガン鉱山の持分 13%を国際コンソーシアム(英国の鉱山投資会社 Pllinghurst 社が主導)を通じて引き受けることを発表した。これによって、2010 年からの生産開始意向、年間所要量の 25%に相当する 13 万 t 以上のマンガンを安定的に調達できる。国際コンソーシアムを通じて海外の鉱山開発に参画するのは初めてで、今後、全世界の石炭、鉄鉱石開発に積極的に乗り出す方針のようである。

2008 年 5 月に豪州の Sandfire Resources 社との提携を発表した。Sandfire Resources 社は、西オーストラリア州や北部準州でマンガン、鉛、亜鉛、銀、鉄鉱石などの開発を行っている。こ

れによって、POSCO は、将来生産される鉱物資源の最大 30%(金とダイヤモンドを除く)を購入する権利と株式 19.99%を獲得する。取得金額 720 万 A\$を支払う。

7 月、鉄鋼業界では初めて、ニューカレドニア政府及び議会から 5 か所のニッケル鉱山開発使用権と同鉱山で生産されるニッケル鉱石の 30 年間の対韓国輸出権の承認を受けたと韓国の地元紙が報道した。

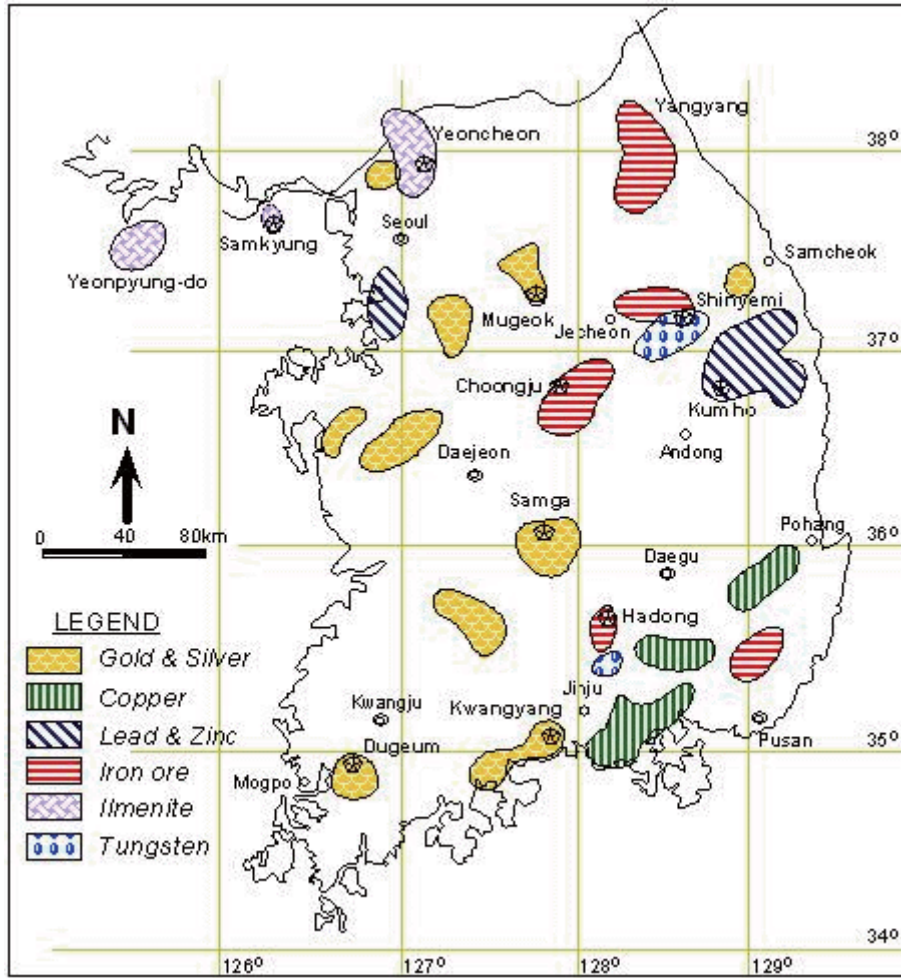
5. 我が国との関係

新日本製鐵、JFE スチール、住友金属工業、神戸製鋼所、日新製鋼は、伊藤忠と韓国鉄鋼最大手 POSCO が共同でブラジル鉄鋼大手 CSN 社の 100%子会社の鉄鉱石生産・販売会社であるブラジル NAMISA 社に資本参加し、同社株式の 40%を取得することを CSN 社と基本合意した(2008 年 10 月)。

日韓共同事業体の投資額は、NAMISA 社株式 40%の対価 約 3,120 百万 US\$ (約 3,120 億円)となる見通しである。NAMISA 社は、ブラジル南東部ミナス・ジェライス州に、自社鉄鉱山、選鉱設備から成る鉄鉱石プロジェクトを保有している。

6. その他トピックス

1936 年 6 月 3 日に長頂(チャンハン)製錬所で韓国内で初めて銅鉱石を製錬したとして、その日を記念して『非鉄金属の日』が定められた。その第一回記念式典が、2008 年 6 月 3 日に行われた。



出典：KOMIS ウェブ (http://www.kores.net/englishKomis/general/e_outline.jsp#Major)

韓国内の主要鉱床位置図

(2009. 6. 23/本部 白鳥 智裕)